

連合徳島ユースターNEWS

(2023年度 第1号)



去る2022年12月6日「2023年次総会」において新役員体制、活動計画他の承認をいただき、2023年度の活動が始まりました。（総会の報告他については、NEWS総会特別号をご参照ください）

以下、冬から春頃にかけての内容となります。以後の新メンバーでの活動につき、簡単にご報告いたします。

その中でも今回のユースターNEWSでのトピックスとして、2023年3月10日に開催の「春季学習委員会」、3月18日に開催の「青年委員会・女性委員会 合同学習会」の研修レポートを掲載しております。充実した内容の研修となっておりますので、ぜひご一読ください。

【経過報告】

[①「第10回 生活困窮者越年支援ボランティア」(2022年12月27日～12月29日)]

●労働福祉社会館別館を会場として開催された同活動につき、12月29日(配布当日)の駐車場整理対応の任務に、青年委員会から2名が参加しました。

[②「青年委員会 第1回幹事会」(2023年1月12日)]

●幹事10名が参加し、青年委員会としての活動の目的および体制の確認、今年度の年間活動計画および直近の研修会等についての方向性や具体的な内容の協議、ボランティア活動への参加に対するスタンス等の確認、広報活動の運用方針の協議、地方連合会主催の各種集会への対応確認等を実施しました。

[③「第26回 とくしままちなか花ロードproject」(2023年1月21日)]

●事務局を含めて5名が参加し、NPO法人「新町川を守る会」が主催する徳島市内中心部における花植え活動に参加しました。

[④「2023春闘開始宣言集会・連合白書学習会」(2023年2月7日)]

●宣言集会でのアピール対応を行うと共に、集会・学習会への参加により研鑽を深めました。

[⑤「第43回 部落解放・人権徳島地方研究集会」(2023年2月9日～10日)]

●2月9日の全体集会はあわぎんホールにて、2月10日の分科会はアスティとくしまにて、久々の対面開催となり、青年委員会としては、2名が司会対応・受付対応等の任務を担当しました。

[⑥「青年委員会 第2回幹事会」(2023年2月20日)]

●幹事10名が参加し、直近の「春季学習研修会」、「青年委員会・女性委員会 合同学習会」の具体的な内容確認および任務分担の協議等を実施しました。

[⑦「2023春闘勝利総決起集会・第20回統一地方選挙必勝の集い」(2023年3月2日)]

●集会でのアピール対応を実施しました。

[⑧「青年委員会春季学習研修会」(2023年3月10日)]

●NPO法人「クレエール」にて15名の参加により開催され、クレエールの施設見学および「子ども食堂・宅食」事業の運営を通じて浮き彫りとなる貧困家庭の問題等につき、原田昭仁理事長の講演をいただき、様々な知見を得て、研鑽を深めました。（詳細については藤井事務局次長の研修レポート[別掲]他をご参照ください）

[⑨「青年委員会・女性委員会 合同研修会」(2023年3月18日)]

●23名の参加により開催され、連合本部より政治センター事務局の照沼局長を講師にお招きして「政治と労働組合」他のテーマでのご講演をいただくと共に、両委員会の活動報告を行い、相互の活動への理解を深め、懇談会で交流を深めました。（詳細については山本幹事の研修レポート[別掲]他をご参照ください）

[文責:四国電力労働組合 小畠 文人]

【春季学習研修会および女性委員会との合同学習会レポート】

徳島市万代町の「万代ふ頭」の一角にあるNPO法人「Creer(クレエール)」。

スペイン語で「信じる」という意味のとおり、障がいのある人が社会の中で自立して働くチャンスを得て、お客さま、地域の人に喜ばれる仕事が必ずできるという可能性を信じて共に努力を続ける、という信念の元に2008年に設立されました。

障がいのある人の就労の場として、お弁当製造販売を中心にレストランを運営するほか、IT、縫製、手工芸、芸術、スポーツ活動、地域交流事業など、幅広い分野の事業に取り組んでいます。

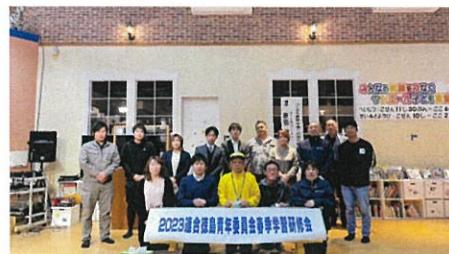
(クレエールの活動については、Facebookでも積極的に情報発信されており、また、新聞紙上等でも活動の記事が掲載されております。ぜひ、ご確認をいただければと思います)

当施設にて、3月10日(金)の18時30分から、15名の参加により、連合徳島青年委員会 春季学習研修会が開催されました。

クレエールの原田昭仁 理事長より「子ども食堂・宅食」事業で浮き彫りとなる「ひとり親・貧困」などの社会問題についてお話を聞かせていただきました。

身近なところで貧困問題が起こっていることを知り、生きていく上で食の大切さ、人と繋がりを持つ上でコミュニケーションをとり続けることの大切さを改めて学ぶことができました。

【画像は施設見学および講演の様子と集合写真です】 (Facebook記事より抜粋)



3月18日(土)の15時より、23名の参加により、更なる活動の広がりを狙いとして、連合徳島では初の企画となる、青年委員会・女性委員会の合同学習会を行いました。

学習内容としては連合本部政治センター事務局 照沼局長より 「政治と労働組合」「若者が政治を変える」のテーマについて、お話を聞かせていただきました。

若者が政治にもっともっと参加してより良い社会を作っていくことがとても大切だということを改めて学ぶことができました。

また、相互の活動報告他を通じて女性委員会との交流を図り、今後の更なる連帯のベースを築くことができ、とても有意義な研修になりました。

【画像は講演および活動報告等の様子です】 (Facebook記事より抜粋)



※過去のNEWS他の資料については、連合徳島HPに掲載しております。興味がある方は是非
ご一読ください。

2023 連合徳島青年委員会 春季学習研修会
(報告者 連合徳島青年委員会 藤井一記)

2023年3月10日にNPO法人「Creer(クレエール)」にて、連合徳島青年委員会の春季学習研修会を実施し、Creerの理事長である原田昭仁様に講演いただきました。

今回の研修会では講演に先立ち、Creerで実際に行われている活動について、現場を見せていただきながら説明いただきました。

宅食の荷詰めの現場やお風呂場、こどもキッチンを見学しましたが、いずれの場所でも今までの活動の中で実際に自分たちで見聞きした事実をもとに、こどもやその家族が本当に必要としているものが何なのか、例えば、食料であれば調理の必要な野菜などではなく簡単に食べることのできるインスタント食品やレトルト、缶詰などが好まれるという経験をもとに、宅食で配る物資を工夫している等、改善を繰り返しながら活動を進めていることがわかりました。

続く原田理事長の講演では、障がい者の雇用についての Creer の成り立ちや、思いについてと、こども食堂の取り組みをはじめとする、あまり世間一般に見えてこない貧困家庭のこどもたちの実態とこれまでのそのこどもたちに対する取り組みについて、実際の経験を交えて熱く語っていただきました。

障がい者の取り組みでも、こどもたちへの取り組みでも、人間関係の構築を一番として、最初は一方通行だとしても、1回きりの関係で終わらせずに継続することで、少しずつ信頼を築いていくことを大事にしている事が伝わってきました。

また、宅食のお話の中で、ご自身が体験した様々な貧困家庭との関わり方についてもお話を頂きました。

我々が生活していく中でなかなか気づくことができないですが、私たちが思っている以上に貧困の問題は身近なところにあり、そういう家庭ほど他者との関係も希薄になるため、余計に目につかなくなっているのだということに気づかされました。

原田さんも講演の中で、宅食を届けたらまずは「親と子の関係を見る」とおっしゃっておられました。子どもの身だしなみや靴、挨拶が出来る出来ない、質問するとまず親の顔をうかがう等些細な気付きから、本当に助けを必要としている家庭を見抜き、そういった家庭については意識して訪問回数を増やすなど、少しずつでも関係性を作りあげ、最終的にこども食堂に参加してもらえるようになるまでに変えていく、活動を継続していく情熱を感じることができました。

今回は、Creerの方に軽食も用意していただき、カレーやうどんを食べながらお話を伺いましたが、原田さんは、1時間半余りの講演の後も、まだまだ話したりないといった感じで、自分たちの活動に対してたくさんの想いをもって活動していることが伝わってきました。

昨年の春季学習会で話をうかがった喜多條さん、今回の原田さんとクレエールとは今後とも青年委員会としても連携を深めていき、我々でもできることを少しずつでも協力していきたいと思います。

地元の徳島にこのように、高い志をもって周りからも高く評価されているような活動を行っている団体があることをもっと周囲に広めていくことを約束して結びの言葉といたします。

本当にありがとうございました。ともに歩んでいきましょう！

連合徳島 青年委員会・女性委員会合同学習会レポート

(報告者 連合徳島青年委員会 山本 圭介)

2023年3月18日にザ・グランドパレス徳島にて、連合徳島青年委員会・女性委員会合同学習会を開催しました。

今回の学習会は青年委員会の小畠委員長の開会あいさつから始まり、参加者22名と大人数であったにも関わらず終始和やかなムードで進行していきました。

次に、本日の主要連合本部 政治センター事務局の照沼局長から「政治と労働組合」について貴重なご講演をいただきました。内容としては、労働組合が政治活動に取り組むのは、組合員と家族の暮らしを改善し、幸せを拡大するためである。その政治活動をするためには、組合員一人ひとりが公職選挙法や政治資金規正法等の法律を知っていくことである、というものでした。実際、政治活動と選挙運動では規制対象も違い、学習しておかないとその違いや法律に抵触してしまう複雑なものでしたが、照沼さんの要点をついた講演で、非常にわかりやすく学習できました。中でもユニークだったのは、選挙事務所が選挙運動中に提供できる食事数は一日45食以内で、お酒を飲ませて投票依頼すると買収にあたる、というものです。このような、知っておかなければいけない禁止事項も学習できたのは、今後選挙運動に取り組むうえで非常に大切だと感じました。

そして講演の終盤に照沼局長から、物価高や増税で消費者の生活が圧迫される今、労働組合こそ声を挙げて、この状況を変えるために尽力していきましょうという言葉があり、私を含め参加者全員の胸に響いたと感じました。

照沼局長のご講演が終了した後は、青年委員会の活動報告を長岡事務局長から、女性委員会の活動報告を三木事務局長からいただきました。活動報告から感じたのは、両委員会ともにボランティア・学習会等を実施しており、社会貢献を通じて労働運動を行っているということでした。今後も青年委員会・女性委員会で切磋琢磨し合いながら徳島の労働運動を盛り上げていきたいと思いました。

最後に、女性委員会の藤田委員長から閉会のあいさつをいただき、学習会は終了となりました。私がこの学習会から学んだことがあります。それは、徳島の運動を盛んにし、組合員とその家族の生活を向上させるためには、より学習し、身の回りの人に寄り添う等、自分にできることを最大限していかなければいけないということです。この先も課題や困難に立ち向かうことがあるでしょうが、今日学習したことを胸に、連合徳島青年委員会ならきっと乗り越えていけると思いました。これからも、ともに頑張りましょう！

連合徳島ユースターNEWS

(2023年度 総会特別号)



【総会要旨報告】

2022年度は、昨年度に引き続き、新型コロナ禍の制約の影響下ではあったが、SNS等のツール活用、WEB形式併用での研修の実施等をしながら、幹事間のコミュニケーションを大切に活動を進めた。

2021年度からの論議で確認されていた方向性に基づき、連合徳島組織内だけでの活動にとどまらず、徳島という地域に目を向け、そこで活躍する「NPO法人Creer(クレエール)」の活動に触れ、活動の意義を知り、そこに顕在する社会的な課題等に気づく機会、また、地元のアクティビティの紹介なども、研修会の開催やユースターNEWSによる発信で実施していくなど、有意義な活動が展開できたものの、SNS他の活用も含めたタイムリーな情報発信という点で課題が残る部分もあった。

2023年度の活動計画として、2022年に引き続き、

「紡いだ絆はどんな困難にも負けない。変化を恐れず、新たなチャレンジを続けよう！」

のスローガンを採択し、幹事会内部だけではない、人と人との「絆」を大事にしながら、前向きなチャレンジを継続し、より充実した活動を目指していく方針が確認された。

青年委員会幹事会メンバーの交代も短期となる場合が多いが、諸活動を継続・発展させていくための組織体制づくり、充実した情報発信といった課題に全力で取り組むので、みなさん1人ひとりが連合徳島青年委員会メンバーの一員として、共に活動を盛り上げていってほしいと会場全体へ要請し、小畠委員長の団結ガンバローで閉会した。



【2023年度 幹事会体制】

役 職	氏 名	構成組織
委員長	小畠 文人	電力総連
副委員長	尾崎 海斗	J A M
事務局長	長岡 裕己	自治労
事務局次長	藤井 一記	電機連合
幹 事	圓山 康平	全水道
幹 事	辰巳 明宏	UAゼンセン
幹 事	松本 昂大	農協労連
幹 事	橋 拓	J P労組
幹 事	堂免 真也	全国一般
幹 事	増田 紫苑	交通労連
幹 事	山本 圭介	全労金

連合徳島青年委員会(ユースター)設置の経緯や目的とは？

連合徳島では、労働運動の活性化と次代を担う人材の交流・育成を目的として、青年委員会および女性委員会をそれぞれ設置いたしました。

青年委員会は、2003年の「連合ユース・プロジェクト」で検討、集約された『明日の連合をつくる青年活動の指針』の提言に盛り込まれた、以下の4つの目的意識を明確にして、日々の活動に取り組んでいます。

- ①労働運動を担うリーダーの育成 ②仲間同士の交流・ネットワークづくり
- ③青年が抱える特有な問題の把握と解決 ④労働運動を通じた社会活動・国際連帯

【青年委員会の主な活動】

年間を通じて、幹事会の定期的な開催や春季・秋季学習会を開催するとともに、女性委員会との合同研修会に参加。また、各種ボランティア活動への積極的な参加と連合徳島が開催する集会等の運営をサポートしています。活動報告については、不定期ですが、連合徳島ユースターNEWSの発行等により実施しています。

青年委員会広報体制整備についてのお知らせ

連合徳島青年委員会は、連合所属の様々な組織から青年層が集い、各種会議・研修・その他企画の運営等を通じて交流を深め、情報交換等を行いながら、各人の思考を深め、幅を広げ、スキルアップ等を図るうえでも貴重な場となっております。

ただ、運営していく中で、広報体制の整備が不十分で、対外的な発信が弱く、せっかくの活動の成果等が広く認識されず、各組織の共通の果実でない状況であることが、長年の課題となっていました。

その解決策として、活動報告資料としての「ユースターNEWSの作成・充実」を第1ステップとして着手し、第2ステップとして、「連合徳島HPを活動報告資料等のプラットフォームとして活用・整備」、「SNS(Facebook)での発信」に着手することとしました。

連合徳島HPへの資料掲載については、2022年12月末現在、2022年度の活動についてのみとなっておりますが、徐々に内容の充実を図っていきます。

また、Facebookについては、速報性を大事にしながら「連合徳島青年委員会」ページにて活動報告等の発信をしていく方針です。

連合徳島HPおよびFacebookページのQRコードを添付しておきますので、ぜひご一読ください。当該ページのフォロー、更新を気に掛けていただけましたら幸いです。



連合徳島HP活動報告等
(NEWS他の資料を掲載)



連合徳島青年委員会
Facebookページ



【青年委員会代表メッセージおよび自己紹介】

昨年度に引き続き、委員長の任務を拝命しました小畠です。

総会の中でもお話をしましたが、連合徳島青年委員会は、1人ひとりが主役であり、組織のより良きメンバーとして有機的に動くサッカー型の組織として、メンバーであり、サポートーでもあるみなさんと一緒に、一致協力して活動していきたいと思っています。

みなさんにお約束した課題について「一期一会」の精神で、幹事会一同、全力で取り組み、既成概念や慣習、偏ったバイアス等に捉われず、前向きなエネルギーを持ってチャレンジし、しっかりと還元できるように頑張っていきたいと考えております。

私の好きな「意志あるところに道は開ける」の言葉のとおり、明るい未来を切り開くため、共に力強い一步を刻んでいきましょう！

[2023役職]
委員長
[氏名]
小畠 文人
(こばた ふみと)
[所属]
四国電力総連
(四国電力労組)

青年委員会メンバーの横顔



今年から副委員長になりました尾崎です。
連合の活動をし始めてまだ一年目で、わからないことが多い中であり、
皆さんに迷惑をかけることも多々あると思いますが、よろしくお願ひします。

[2023役職]
副委員長
[氏名]
尾崎 海斗
(おざき かいと)
[所属]
JAM四国
(日鉄鋼管ファイン
チューブ労組)



今年度から新たに事務局長の任務を預かりました自治労の長岡です。
自治労の運動では、徳島県本部青年部長として、すべての取り組みの「目的」と「目標」を明確にし、組合員に伝わる労働組合活動の実践を心掛けています。

連合徳島青年委員会は、普段交わる機会が少ない他産別の仲間と単組・産別を越えた「運動交流」、職場での働き方や生活の「実態交流」ができる貴重な機会と捉えています。

その中から、徳島の青年労働者が抱える課題の解決にむけて、青年委員会の幹事とともに、議論を重ね、多くの産別の仲間を巻き込んだ活動の実践につなげていきたいと考えています。

新型コロナウィルス感染症の猛威は、未だに終息が見えませんが、
連合徳島青年委員会の活動の前進にむけて、ともに頑張りましょう。

[2023役職]
事務局長
[氏名]
長岡 裕己
(ながおか ゆうき)
[所属]
自治労
(美馬市職労連)



青年委員として2年目を迎えることになりました、電機連合、PHC労働組合所属の藤井一記です。

出身は香川県で、うどんと競馬が好きです。
昨年は、わからないままに、委員会の活動に参加してきましたが、
今年は、自分からも活動の提案ができるように努力していきたいと思
いますので、よろしくお願ひいたします。

そして、それらを自組織での活動にも生かしていくよう頑張りたいと
思います。

今年1年間よろしくお願ひいたします。

[2023役職]
事務局次長
[氏名]
藤井 一記
(ふじい かずのり)
[所属]
電機連合
(PHC労組)

青年委員会メンバーの横顔



[2023役職] 幹事
[氏名] 圓山 康平（えんやま こうへい）
[所属] 全水道（徳水労）

今年度より着任しました全水道の圓山と申します。
分からぬことだらけですが様々な組織の方と関われる良い機会と捉え、コミュニケーションをとつていきたいです。私自身学生時代は野球をしていたこともあり、体を動かすことが好きなのでそういう活動を交えて楽しみながら行えればと思っています。そこで得た新たな気づきを自分の組織にも生かせるよう、前向きに楽しく無理のないよう、活動、運動していきたいです。



[2023役職] 幹事
[氏名] 辰巳 明宏（たつみ あきひろ）
[所属] UAゼンセン

今年度 幹事をさせて頂きますUAゼンセン辰巳です。
出身は大阪で、10月に徳島に着任しました。
早く徳島を知るため 休日は、県内の観光地を食べ歩きしています！
「大歩危・小歩危」、「かずら橋」、「剣山」、「阿波の土柱」、「たらいうどん」、「もみじ川温泉」、
「阿佐海岸鉄道 DMV」、「日和佐ウミガメ」、「鳴門」・・・どこに行っても素晴らしい！！！
プラス 野菜・果物・お魚・お肉も美味しい！ 充実した休日を過ごせています。
労働組合の活動も23年目になりました。
「組合活動には終着駅はない。」
連合徳島青年委員会の活動が、充実した活動になるように頑張ります！
宜しくお願い致します。



[2023役職] 幹事
[氏名] 松本 昂大（まつもと たかひろ）
[所属] 農協労連（阿南農協職員労組）

業務内容の変更で活動に影響が出たりもしますが、参加したときには全力で取り組んでいきたいです。よろしくお願いします。



[2023役職] 幹事
[氏名] 橘 拓（たちばな たく）
[所属] J P労組（徳島中央支部）

引き続き幹事をさせていただく橘です。
今年度も微力ながら青年委員の活動をしていこうと思いますのでよろしくお願いします。

青年委員会メンバーの横顔



[2023役職] 幹事
[氏名] 堂免 真也 (どうめん しんや)
[所属] 全国一般 (ナカテツ労組)

今年から連合徳島青年委員会に戻ってきました、堂免です。
委員長も言われておりましたが、楽しんで活動が出来たらと思っています。宜しくお願い致します。



[2023役職] 幹事
[氏名] 増田 紫苑 (ますだ しおん)
[所属] 交通労連 (四国高速運輸労組)

今年から青年委員になりました交通労連の増田です。
職場の労働組合では執行委員をしておりますので、連合徳島青年委員会で学んだことを持ち帰って生かせるよう積極的に活動していきたいと思っております。
初めてのことばかりで分からないことが多いですが、よろしくお願い致します。



[2023役職] 幹事
[氏名] 山本 圭介 (やまもと けいすけ)
[所属] 全労金 (四国労金労組)

今年度から連合徳島青年委員会の幹事を務めさせていただきます、四国労金労組の山本です。
社会人になって4年目になりますが、まだまだ組合活動については勉強中の身です。しかし、
徳島の組合活動を青年層から盛り上げていけるように、熱意を持って取り組んでいきたいと思っ
ています。

歴代の先輩方から受け継いだものと、青年委員会独自の新しいものを融合させ、多様化が進む
現代社会に寄り添った活動をしていきたいと思っております。

課題は様々あるとは存じますが、連合徳島青年委員の一員として、一致団結して頑張って参ります！

退任役員からのメッセージ

前体制で事務局長の任に当たっていました、自治労の新居です。青年委員会では多くのことを学ばせていただきました。これからは労働運動に役立てていきたいと思います。

その一方で、私たちを取り巻く労働環境は厳しさを増しているのを感じています。職場を見渡すと、多くの青年労働者が長時間労働や担当者としての責任に悩まされており、定年まで安心して働くことのできる職場は実現しておりません。皆さんの職場でも同じような状況だと思います。そのような時代だからこそ、労働者全体の底上げを図ることのできる連合が果たすべき役割は大きいと思います。青年委員会の今後の発展とご活躍をお祈りして、私からの挨拶とさせていただきます。お世話になりました。

【2022年度 事務局長 新居 一真(にい かずま) 自治労(美馬市職労連)】

いつもお世話になっております。四国労金労組の河村です。この度、連合徳島青年委員会の幹事を退任となりました。3年間、幹事の任にあたっておりましたが、小畠委員長を初め、皆様からのユニークな発想、フットワークの軽さを強みに連合徳島をより身近に感じていただけるような活動が出来た3年間であったと思います。

この貴重な経験を労組に持ち帰り、青年委員会活動のアイデアとして、活用させていただきます。これからも連合徳島青年委員会の益々の発展を祈念致しまして、退任の挨拶とさせていただきます。皆様、大変お世話になりました。

【2022年度 幹事 河村 孝男(かわむら たかお) 全労金(四国労金労組)】

UAゼンセンの人事異動により昨年の10月を以て徳島を離れております。それに伴い連合徳島青年委員会の幹事を退任いたしました。3年間という短い間でしたが、青年委員会活動に参画させて頂き、多くのことを学ばせて頂きました。ただ、残念だったことは、コロナ禍であり、青年委員会メンバーの皆さんと交流を深めることができなかったことです。引き続き、withコロナの活動が続くと思いますが、委員長を中心に青年委員会活動が益々発展しますことを祈念しております。3年間お世話になりました。

【2022年度 幹事 恵島 美奈江(えじま みなえ) UAゼンセン】

2年間という短い期間でしたが、大変お世話になりました。コロナ禍であったり、仕事の都合でなかなか活動に参加できませんでしたが、それでも多くのことを学ばせていただきました。

今回得られた経験を単組の活動にも活かせればと思います。繰り返しになりますが、大変お世話になりました。

【2022年度 幹事 吉岡 大地(よしおか だいち) 全水道(徳水労)】

連合徳島青年委員会では短い期間ではありました、皆様大変お世話になりました。また、活動を通して多くのことを学ぶことができました。今後は、学ばせていただいたことを糧にして、精一杯自身の組合活動に活かしていきたいと思います。皆様の益々のご活躍をお祈りしております。ありがとうございました。

【2022年度 幹事 岡久 駿(おかひさ しゅん) 四国電力総連(四国電力労組)】



ありがとうございました！

連合徳島ユースターNEWS

(2023年度 第2号)



長かった猛暑の夏も終わり、10月に入ったあたりから急に気温が下がり、すっかり秋の気配を感じる今日この頃。周囲を見渡すと、夏の疲れも手伝ってか、体調を崩す方も多く見受けられるようですが、仕事も組合活動も心身の健康が第一です。いま一度、自身と周囲のワークライフバランスを確認して、チームワークよく、元気に季節の変わり目を乗り切っていきましょう！

前回のNEWS発行から少し期間が空いてしまいましたが、この2023年度は、幹事会一同の頑張りで、充実した活動を展開できていると思っています。

以下、前回報告（3月18日開催の「春季学習研修会」まで）以降、春の終わりから秋頃にかけての内容となります、簡単にご報告いたします。

その中でも今回のユースターNEWSでのトピックスとして、2023年9月9日に開催の「青年委員会・女性委員会 学習交流会」の研修レポートと、特別版として、2023年6月30日に連合本部主催で開催されました「男女平等講座」の研修レポートを掲載しました。

【経過報告】

① 「第94回 徳島中央メーデー」(5月1日)

新町川公園（御成婚広場）で開催された当該行事に幹事3名が参加し、デモ行進のシュプレヒコール先導等の任務を担当しました。

② 「第27回、第28回 とくしままちなか花ロードproject」(5月20日、9月16日)

NPO法人「新町川を守る会」が主催する徳島市内中心部における花植え活動に参加しました。

第27回は幹事1名が参加し、第28回は参加者の減により、組織としての参加を見送りました。

③ 「青年委員会 第3回～第6回 幹事会」(5月23日、7月18日、8月23日、9月26日)

上記4回の幹事会を開催し、幹事間の近況報告等による情報交換および交流を図りつつ、青年委員会で主催する研修の企画立案、地方連合会主催の諸行事への対応確認等を中心に、活発な協議を行いました。

④ 「第23期 連合徳島ボランティアサポートチーム養成講座」(5月27日、6月24日、8月26日)

第1講座「普通救命講習」、第2講座「障がい者との連携(車椅子と白杖体験)」に幹事1名が参加しました。[※第3講座「災害時を想定した実技研修①」については幹事の参加なし]

⑤ 「第17回 男女平等講座」(2023年6月30日・連合本部主催の研修への参加)

全電通労働会館にて対面開催された本部主催の同研修（全国各地から約50名が参加）に、幹事1名が参加しました。（内容等詳細については研修レポートをご参照ください）

⑥ 「2023連合徳島・3地協合同 秋の大運動会 運営委員会」(9月4日)

幹事1名が参加し、青年委員会としての任務分担の確認等を実施しました。

⑦ 「青年委員会・女性委員会 学習交流会」(9月9日)

NPO法人「クレエール」にて18名(事務局含む)の参加により、女性委員会と合同で開催され、連合本部より講師をお招きして「男女平等参画、ジェンダー平等・多様性の推進」をテーマとした講演、また食事を取りながらの交流および意見交換会を実施しました。（詳細については山本幹事の研修レポートおよびFacebookの投稿をご参照ください）

【「青年委員会・女性委員会 学習交流会」ダイジェスト】

連合徳島青年・女性委員会合同での学習交流会を特定非営利活動法人「クレエール」で行いました！
【ジェンダー平等】他に関するテーマで、連合本部 総合政策推進局（ジェンダー平等・多様性推進局）滝沢次長からの基調講演の後、ざくばらんな雰囲気の中で、意見交換の場を設けていただきました。その中で、私自身の日常にも何気なくジェンダー問題が潜んでいるんだなと感じました。例えば、いま急速に進んでいる男性の育児休暇に関しては、滝沢次長との対話の中で、育休の取得率といった「量」だけに目を向けるのではなく、それぞれの家庭環境や取得期間などの「質」にも目を向けて欲しいなど、私自身もハッとさせられる内容がありました。

ジェンダー問題というのは、根深いものですぐに解決！という訳にはいかないものだと思います。ただ、こういった学ぶ機会を設けることで常に意識を持つことが大事だと改めて感じられた、良い学習交流会となりました。

（基調講演・質疑応答の第1部の後には、参加者・講師・事務局がいろいろな話をしながら一緒に食事を取り、和やかな雰囲気での交流会となりました。コミュニケーションを深める良い機会になったと思います！）

【画像は第1部の講演および第2部の交流会の様子です】（Facebook記事より抜粋）

研修のカリキュラム

「連合徳島 青年委員会・女性委員会 学習交流会」次第

とき： 2023年9月9日（土） 16:00～
ところ： 特定非営利活動法人「クレエール」
徳島市万代町5丁目71-4

15:30～ 受付

16:00～ 開会

開会挨拶 小畠 文人 （青年委員長）

16:05～ 講演 滝沢 弘 次長（連合本部ジェンダー平等多様性推進局）
「男女平等参画、ジェンダー平等・多様性の推進」について

17:00～ 質疑応答・意見交換 （時間の都合上、食事をとりながら）
「連合徳島における現状報告や課題認識等について」
「男女間のコミュニケーション活性化の施策等について」

19:00～ まとめ・閉会挨拶（予定）
藤田 晶子 （女性委員長）

男女平等参画の理念の元、青年・女性がより一丸となって活動していくために、研修・交流を通じて、現状認識および課題等を把握・共有することで、コミュニケーションの活性化を図る。



小畠委員長



長岡事務局長



第2部の交流会(テラスでBBQ)の様子



連合徳島 青年委員会・女性委員会 学習交流会 参加レポート
(報告者:連合徳島青年委員会 幹事 山本 圭介)

2023年9月9日、NPO法人「クレエール」にて、連合徳島青年・女性委員会 学習交流会を開催しました。

今回の学習会では、連合本部 総合政策推進局 ジェンダー平等・多様性推進局の滝沢次長をお招きし、男女平等参画、ジェンダー平等・多様性の推進をテーマとして講話をいただきました。滝沢次長からの講話の中で印象に残ったことなどを以下に記載していきます。

日本は、ジェンダーギャップ指数【各国の男女間格差】が4分野(政治・経済・教育・健康)総合で146カ国中125位、特に政治と経済の分野で遅れをとっており、我々の職場・労働組合においても、まだまだ男性比率が未だ高いのが現状です。

正しく問題の本質を理解し、解決の糸口を探っていくためには、「当事者」の目線・感覚が欠かせません。

真の男女平等参画、ジェンダー平等・多様性の推進のためには、性別・世代等の別なく、みんなが「当事者意識」を持って、意見を出し合い、一体となって取り組んでいくことが重要です。

改善のステップとして、各組織や会議体等の様々な場面において、現状のいびつな男女比率を是正していくこと、かつ、その当事者である女性が、ただの参加者ではなく「決定権を持つ、影響力を及ぼすことができる」立場として、積極的に取り組みに携わっていくことが不可欠ですが、そのハードルはたくさんあります。

未だ日本に強く根付いている、アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)に基づく、例えば、男性は仕事、女性は家事育児といった固定的性別役割分担、残した成果や生産性ではなく、長時間労働を厭わない人が評価される慣行なども、改善の兆しはあるものの、まだまだ多く見受けられる現状です。

その概念を前提にした人員配置や担当業務等の割り振りなどにより、十分な教育、スキルアップ等の機会を得られない(得られなかった)人材が多くいるのは事実であり、本人の能力・適性を伸長し、その力を発揮する機会や役割および評価を得られないことから、意欲のある人材の早期のドロップアウトにつながるケース、逆に特定の人に業務等が集中してしまうことに伴うバーンアウトにつながるケースなども顕在化しつつあります。これは、組織等にとっても、各個人にとっても大きな損失であり、早期に是正されるべき課題です。

育児・介護といった家庭でのタスクも、職場での様々なタスクも、属人化するのではなく、チーム(例えば家族、職場のユニットなど)のそれぞれが「自分ごと」と捉え、状況によって柔軟にメンバーの役割自体や負荷を調整しながら、しっかりリスクラムを組んで解決していく、というスタイルへの変革が求められていると思います。

現状は、家庭、職場、様々な組織等においても、そういったロールモデルが少なく、産みの苦しみの段階だと思いますが、激変する環境に対応していくために、必ず成し遂げなければならない、喫緊の課題です。

【様々な問題は、決して他人事ではなく、ある日突然、いつ自分自身や関係する組織に降りかかるても不思議はありません】

また、各組織等において、マイノリティーが積極的な発言や関与がしにくく、マジョリティの雰囲気に合わせる、その意見に流されがちになる、などの傾向が顕著になり、多様性が發揮されず、必要な変化が起こりにくいという問題もありますが、この解決のヒントとして、クリティカル・マス（決定的多数）の考え方は参考になると思いました。

同じ属性のメンバーの比率が一定数を超えると、急速に変化が生じるとされる境目で、その値は概ね30%とされております。

政治・経済の意思決定の場においても勿論のこと、我々の属する連合や組合執行部においても、女性比率を30%以上に引き上げることで、女性の立場・視点からの積極的な意見・提案等が期待されること、また、青年の立場においても同様であり、30%という比率は、今後の明確な活動指標になると感じました。

(逆に、それ未満だと、各々の立場からの積極的な意見・提案はなされにくいということ)

世界の潮流としては、2030年までに女性指導者の割合を50%程度まで高めようとしています。現在、日本において当面の目標とされている、意見反映の分岐点となる30%程度の目標に留まることなく、さらに推進していくべきだと思います。

ただ、数字だけを目標としては、本質を見失うことになります。裾野の広い、質の高い活動を成し遂げるには、メンバー個々の能力開発等にもしっかり注力すると共に、多様なメンバーが参画できるよう、従来の慣行を見直し、ワークライフバランスにも配慮した環境整備も重要な課題となります。

講演後の質疑応答の中では、組織活動における女性比率を高めていくための具体的な取り組みに関する質疑であったり、男女間のコミュニケーションスキルを向上させるための手法として、脳科学的な見地からの男女の思考のプロセス・傾向、行動特性等の理解等に視点を置いた、従来とは違う切り口からのアプローチも有効ではないか、といった意見も出ていました。

内容の濃かった滝沢次長の講話の後には、交流会として、クレエール様に場所や設備をお貸しいただき、BBQをしながら、ざくばらんな雰囲気の中で親交を深めました。何気ない会話の中で、男性の育休について、取得しやすくなっているが、1か月以上の取得は職場の人員的にも雰囲気的にもまだ厳しいという仲間も何人かいて、まだまだジェンダー平等の取り組みが職場に浸透していないところも多いのだなど感じました。(自身も含む)

最後に、まとめとなります。今回のお話をいただいてから、青年委員として、改めてジェンダー平等について見つめ直すことが出来ました。

経済的な視点としては、女性役員比率が高い企業は、弾力性があり、パフォーマンスも優秀で、財務体質も安定しており、市場からの評価も高いといった特性が見られ、投資判断として有効な指標として考えられているそうです。

もちろん、その視点も重要ですが、そこに携わる人材にもフォーカスし、女性が活躍し・男女ともに働きやすい職場をつくることが課題となります。まずは、これまでのスタイルを見直し、女性役員の人数を積極的に増やそうとすることが重要だと感じました。

変革には個人の意識だけではなく、組織の文化や慣行の変革も求められ、決して簡単なことではありませんが、これまで、男女平等参画・ジェンダー平等の取り組みを推進する中で、歩みのスピードは十分ではないものの、例えば、産後パパ育休やパパ・ママ育休プラスの創設等、少しずつ環境改善も前進していっているとも感じます。

自分たち次第で、もっと職場を良くしていける。滝沢次長のお話しさは、そういった希望に満ちているものだと私は思いました。

私たちの働く職場や労働組合においても、執行部の男女比均等を目指して組織の活性化を図り、当事者がお互いを尊重しながら、建設的な議論を心がけ、女性だけではなく、男性も一緒にになって考え、行動していくことにより、誰もが安心して働くジェンダーハラスメントのない社会の実現に向けて、積極的に活動していきましょう！

2023.6.30 「第17回 男女平等講座」(男性リーダー対象)研修レポート

(報告者:連合徳島青年委員会 委員長 小畠 文人)

全電通労働会館にて、連合本部主催の題記研修が、対面形式で行われ、以下のカリキュラムにて開催されました。受講での意見・感想・要望等について、報告いたします。

- 講義「労働組合とジェンダー平等」
- 提起「連合 ジェンダー平等・多様性推進に関する取り組みについて」
- 講義「男女とも働きやすい職場づくりのためにイクボスと心理的安全性確保でチームづくり」

この度は、貴重な学びの機会をえていただき、ありがとうございました。様々な知見や視点を提示していただき、また、日本の各地で、頑張って活動している仲間と出会うことで、良い刺激も受けることができました。

この度の研修で得た学びを、しっかりと持ち帰って、展開し、徳島の地でも活かしていきたいと思っております。まずは厚く御礼申し上げます。

以下は、私個人の感覚や思いとして、特に今回のテーマに関連して、先行きの不安や懸念を感じる点につき、率直にお伝えさせていただきます。稚拙な内容で、誤った解釈等も含まれているかと思われますが、ご容赦いただけましたら幸いです。

国連は第2次大戦の戦勝国側を中心となって制定され、中国・ロシアといった政治体制に問題のある国家が拒否権など大きな権限を有し、憲章の中で(日本も含まれると解釈される)旧敵国条項も撤廃されていない状況です。

国連およびその関連機関も含めて、その決定や提起する事項等には、権限を有する側に有利となる恣意的な一定のバイアスがかかっていると考えることが自然だと思います。

行動の指針を定めるうえでの一定のエクスキューズにはなるのでしょうか、そこを真に受けて、いたずらに国連(および関係機関)が言っていることだから正しく、その基準に合致しないから日本は遅れている、といったミスリードにより、日本および日本国民の誇りを失わせ、不要な混乱や分断を引き起こす要因となることのないよう、また、そういった動きをしっかり監視し、牽制・抑止する防波堤となつていただけますよう、杞憂とは思いますが、今一度、お願ひしておきたいと思います。

ジェンダー平等や多様性というテーマについて、当事者が相互に理解を深めるという観点で取り組むことについては賛同しますが、あくまでも双方向で、お互いの立場を尊重し合いながら、建設的な話し合いで進めるという大前提の中で議論は進められるべきと思料します。

マスメディアはほぼ報じませんが、安直なジェンダー平等や移民政策に起因する諸外国での暴動や犯罪の増加等の惨状は目を覆うばかりです。そして、その被害者は、騒ぎ立てたノイジーマイノリティーや犯罪者ではなく、規律を守って真面目に生活している国民および国内在住者であり、力の弱い女性や子供はその最たるものです。一体、誰のための政治であり、政策なのでしょうか。

(SDGsの名の元における環境部門の施策や社会の動きなどにも同質のものを感じます)

日本国内においても、特定の意図や思想を持った首長や地方議員などが、疑問符の付く条例制定等を行うことで、不要な社会の混乱や分断を招く事例も増えてきていると感じます。

そういう点からも、十分な議論が尽くされない状況での、安直な法制化については、当事者の利益とならず、また、特定の勢力の活動に法的根拠や資金(我々の租税公課や社会保険料等)を与えることにも繋がり、明確に反対です。あくまでも、丁寧に、慎重に議論は進められるべきだと思っています。

いろいろと申し上げましたが、組合活動の根幹は、俗に言う「現実とかけ離れた、お花畠のきれいごと・空論・言葉遊び」とは、全てにおいて対極を成すものだと考えております。生活者・働く者の目線を持ち、その安全・安心を第一義として、国民の先頭に立って戦ってくれている連合の活動には大きな期待を寄せておりますし、その一員として、微力ではありますが、力を尽くしていく所存です。

今回の講座を受け、連合徳島での活動においても「心理的安全性」の高いチーム作りの概念を周囲に広げ、活発な議論が増えるように心がけ、「本質的な」多様性が担保され、誰もが活躍できる可能性を持った組織づくりのために、自分らしさを活かして、取り組んでいきたいと思います。

【研修時の様子および集合写真】



連合徳島ユースターNEWS

(2023年度 第3号)



10月下旬頃から、季節外れの暑さと急な冷え込みを繰り返し、インフルエンザに流行なども話題になっている状況ですが、体調を崩されたりしていないでしょうか。決して無理はせず、規則正しい生活と十分な休養を意識し、年末の多忙な時期を無病息災で乗り切っていきましょう！

10月22日投開票の2023参院補選【徳島・高知選挙区】においては、連合徳島・連合高知の推薦候補である広田一（ひろた・はじめ）さんが見事に大差での当選を果たしました。

ただ、歴史的な低投票率であったことは、とても残念な材料です。世間の関心の低さは、有権者を無視した、無責任な政治に繋がります。この点は大きな反省材料だと思います。

この選挙戦の最中、元・兵庫県赤石市長の泉房穂（いずみ・ふさほ）さんが応援演説にお見えになつておりましたが、日頃「X（エックス・旧Twitter）」等のSNSなどでも発信されているように、「〇〇の政党だから、〇〇が支持母体だから選ばれる」旧来型の選挙ではなく、『真摯に国民のため、住民のために行動しているかを見極め、それに値する人物であるから選ばれる』方向にシフトしつつあり、与野党含め、信念のない、選挙互助会のような既存政党および政治家に対する世間の評価は厳しい状況であるといった主張には、大いに首肯できる部分があります。

そういう既存政党・政治家の不甲斐なさが「支持政党なし」ひいては「選挙への無関心」に繋がっていると思いますが、その支持されない、関心を持たれない政党・政治家が、私たちのための政策を実現してくれる保証はなく、むしろ逆だと思います。

その状況を見かねて、国民の受け皿となるべく、直近では「日本保守党」等の新たな政党の立ち上げも行われ、大きなうねりとなっています。（大手メディアではほぼ無視ですが・・・）

「政治とは無関心であっても、無関係ではいられない」ものです。政治を「自分ごと」として捉え、政党の政策、政治家の人物、その主張・公約と実際の行動の整合性を見極め、納得のいく一票を投票できるようにしていきましょう。

以下、前回報告（9月末まで）以降、短期間の内容となりますが、簡単にご報告いたします。

その中でも今回のユースターNEWSでのトピックスとして、2023年10月14日に開催の「青年委員会 秋季学習交流会」の研修レポートを掲載しました。

【経過報告】

①「2023年度 連合徳島青年委員会 秋季学習研修会」（10月14日）

労働福祉社会館502号室にて19名（事務局含む）の参加により、連合徳島 島会長を講師にお招きしての講演および意見交換会を実施しました。（詳細は研修レポートおよびFacebookの投稿をご参照ください）

②「2023連合徳島・3地協合同 秋の大運動会」（10月22日）

幹事4名が参加し、駐車場整理、ラジオ体操、各種競技の運営協力等を実施しました。

③「青年委員会 第7回幹事会」（10月30日）

④「青年委員会 第8回幹事会」（11月27日）

2023年度の活動全体の振り返り、2024総会に向けて、議案書（経過報告、2024活動計画他）および役員体制等をメインの議題として、協議を実施しました。

【「青年委員会 秋季学習研修会」ダイジェスト】

2023年10月14日の10時から、労働福祉会館502会議室にて、各構成組織より19名の参加者が集まり、冒頭の主催者からの「参加者全員が当事者の認識を持って、協力して有意義な時間にしましょう」という呼びかけの元、「2023年度 連合徳島青年委員会 秋季学習研修会」が開催されました。

2023参院補選〔徳島・高知選挙区〕選挙期間の真っ只中でしたが、連合徳島執行部より島会長にご参加をいただき、第1部では、「連合徳島における活動および諸課題」、「青年活動に期待すること」をメインテーマとする講演、第2部では、青年委員とのフリーテーマによる意見交換会を行いました。

第1部の中では、「季刊RENGO(2023年・秋号)」に掲載されている「教員の魅力を取り戻すためには」というテーマの対談記事を活用しながら、自らの職場や身の回りを振り返り、共通する課題を認識し、解決のための気付き・示唆を得るという取り組みを行い、「自分の身の回りでも参考になる示唆に富んだテーマであった」、「行き過ぎた「前例踏襲」による固定化のジレンマは組織の健全性・活力を失わせ、悪影響を及ぼすことを再認識した」といった感想、また、その内容と絡めた連合徳島としての課題認識や実践している取り組み、政治活動へのスタンスなどの説明についてもよく理解できたという感想をいただいております。

青年委員の活動については、島会長より「現状を高く評価しており、今後、組織を横断した交流や情報交換をより活発にし、積極的に新しい提案等をお願いしたい」との期待のコメントをいただきしており、更に活動に磨きをかけていければと考えております。

第2部の連合徳島執行部と青年委員の対話というスタイルは初めての取り組みでしたが、労働組合活動の原点である、対面でお互いの温度感を感じながらの和やかな雰囲気でのやり取りとなり、「直接、言葉を交わすことで、連合の方針や考え方などをよく理解することができた」、「自分にできることを考え、しっかりと行動に移していくきたい」といった感想もいただき、概ね好評であったと思います。

閉会あいさつでの主催者メッセージのとおり、「過去」を変えることはできませんが、「現在・未来」は私たちの努力で変えていくことができます。

今回の研修で定着した『礼儀正しく、ずうずうしく』のスタンスで、共に頑張っていきましょう！
(Facebook記事より抜粋)

研修のカリキュラム

「連合徳島 青年委員会 秋季学習研修会」式次第

1. とき 2023年10月14日(土) 10:00~12:00 [9:30~受付]
2. ところ 徳島県労働福祉会館5F (502会議室)
[徳島市昭和町3丁目35-1]
3. 目的 対面での溝話や真摯な意見交換の機会を通じて、連合徳島執行部と活動の次代を担う幹事会メンバーを中心とする青年層との間で、課題認識等を共有するとともに、コミュニケーションを強化し、今後より一層の連合活動の活性化を図る。
4. 開催次第 10:00 開会～主催者挨拶
10:10 講演
[講師：日本労働組合総連合 徳島県連絡会 会長 島 和久 氏]
(テーマ)「連合徳島における活動および諸課題について」「青年活動について期待すること」
10:55～ 講演に関する質疑応答(終了後、休憩)
11:10～ 青年委員との意見交換
11:40 まとめ・閉会挨拶
11:50 アンケート記入
12:00 終了

会場の様子(小畠委員長あいさつ時)



講師を務めていただいた島会長



研修終了後の集合写真



2023年度連合徳島青年委員会秋季学習研修会

2023年10月14日、労働福祉会館で開催し、9産別19人の仲間が参加しました。

冒頭、主催者を代表して小畠委員長から「参加者全員が当事者の認識を持って、協力して有意義な時間にしましょう」とあいさつがありました。

学習研修会では、連合徳島執行部から島会長を講師としてお招きし、「連合徳島における活動および諸課題」、「青年活動に期待すること」と題した講演を受けました。

講演では、「季刊R E N G O(2023年・秋号)」掲載記事「教員の魅力を取り戻すためには」の読み合わせを行い、教員職場で起きている問題などの現場の実態を学ぶとともに、自らの職場や身の回りを振り返り、共通する問題や課題に対する理解を深めました。

また、2023参院補選【徳島・高知選挙区】に対する情勢や連合徳島としての方針提起があり、推薦候補者必勝にむけた意思統一を行いました。

(講演の内容)

- ・ 近年、ITや英語など新しい業務が増加し、子どもと向き合える時間が減っている。
- ・ テストの採点など期日までに終わらせなければならない業務に追われ、いじめや発達障害の子どもに十分な対応ができていない。
- ・ 現行制度では、働いた時間に対する時間外勤務手当が支給される契約形態ではないため、新しいことを始めるのも止めるのも難しい状況であり、前例踏襲の業務をこなすことに精一杯の状況となっている。

(参加者の声)

- ・ 順番に読み上げながらの全員参加といったやり方が新鮮で、じっくり考えながら進めることで、深く理解できた。
- ・ 行き過ぎた前例踏襲による固定化のジレンマは、組織の健全性・活力を失わせ、悪影響を及ぼすことを再認識した。

続いて、島会長と参加者との意見交換会を行いました。

参加者からは、日ごろ抱いている悩みや疑問について、率直な意見が出され、対話を通じて率直な思いをやりとりする中で、労働運動に対する理解を深めました。

(意見交換会の内容)

- 職場に若年層が入ってこない、入ったとしても、すぐに辞めてしまう。連合として、若年層の早期退職をどう認識しているか。
- ・ 連合徳島は、労働環境の改善とやりがいの向上を重視し、様々な取り組みを進めている。特に、春季生活闘争や厚生労働省や文部科学省への働きかけを行い、多くの労働者に波及する取り組みを担っている。
- ・ 早期退職の原因のひとつとして、「自分が思っていた会社・職場ではなかった」といつ

たことが挙げられると認識している。

- ・ 日本では、労働組合の結成率は約 17%程度であり、自らの交渉によって労働条件が改善できる人は、少数派である。しかしながら、それが分かるのは社会人になってからであるため、「思っていた会社・職場ではなかったから辞める」といった状況が生まれている。
- ・ 連合徳島では、それらの解消にむけて、社会人になる前から福利厚生が手厚い会社や労働組合の必要性を知ることができる機会をつくるため、大学などと連携した「寄付講座」の実現をめざし、関係者との対話を進めている。

- 単組・産別の垣根を越えて連帯できる取り組みの機会をつくりたいと考えている。
どういったものが考えられるか。

- ・ 連合徳島の執行部においても、自分が所属する産別以外の取り組みや労働条件を知る機会は少なく、他産別の取り組みに驚かされ、学ぶことが多いある。
- ・ 青年委員会の取り組みとして、他産別の取り組み、労働条件、職場実態などを知る機会があれば、運動の前進につながるものがあるのではないかと考える。

- 多くの組織で労働組合離れが進んでいると感じているが、労働組合としてどのような取り組みが求められているか。

- ・ 仕事も労働組合の活動も両立するのは非常に大変なことだが、それを上回るやりがいがある。
- ・ 職場で困った人が相談できる窓口がある、最低賃金などをはじめとして、労働組合がない 83% の人に影響を与えることができる活動であり、誇らしい活動であると認識している。
- ・ その一方で、労働組合離れや役員の担い手不足が叫ばれているが、原因のひとつとして、「組合役員が組合員の職場に行かない」ことが大きく影響していると感じている。
- ・ 労働組合の役員は、組合事務所で待っているのではなく、「礼儀正しく、図々しく」組合の職場に行き、ひざを突き合わせて話をしていくことが重要。

- 労働組合活動に前向きな人とそうではない人がいるため、温度感に悩む役員がいる。
どう関わるべきか。

- ・ 労働組合活動の取り組みに消極的な人に対する特効薬はなく、取り組みを継続しつつ、待つしかない。
- ・ 誰でもいつかは労働組合があってよかったと思える瞬間があり、そこから運動の前進につながるものと考えている。

● 労働組合活動の均等化・平準化をするためには、どのような取り組みが必要か。

- 各取り組みはあくまで自主的な参加であり、労働組合活動の均等化・平準化は、現実的ではなく、追求するべきではない。
- その上で、若年層の参加を促すためには、レクリエーションなどをきっかけとして、人との接点をつくり、集まって話をするに意義・価値を見出すことができれば、組織強化につながるものと考える。

最後に、閉会あいさつとして、小畠青年委員長から「私たち働く者の、生活者の声をしっかりと社会に届けていく必要があり、労働組合の役割はより大きくなっている。礼儀正しく団々しく運動を前進させたい」という決意表明で閉会しました。